

あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんは、毎日、山へ木の枝をとりに行きました。

おばあさんは、川へ洗濯に行きました。

ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、

「どんぶらこ、どんぶらこ」と、

とても大きな桃が流れてきました。

おばあさんは、びっくりして言いました。

「ありやまあ、大きな桃だ。持って帰って、おじいさんと一緒に食べましょう」

そして、桃を家へ持って帰りました。



夜になりました。

山からおじいさんが帰ってきました。

おばあさんは、

「おじいさん、見てください。」

大きな桃でしょう」

と言いました。

「わあ、本当に大きな桃だ」

おじいさんは喜びました。

おばあさんは、

「さあ、おじいさん、一緒に食べましょう」

と言って、桃を切りました。



すると、桃の中から

かわいい男の子が出てきました。

おじいさんとおばあさんは、

とてもびっくりしました。

「わっ！ 桃から子どもが出てきた！」

「元気な男の子だ！」

二人には子どもがいませんでした。

だから、二人はとても喜びました。

おじいさんは言いました。

「この子は桃から生まれたから、

名前は『桃太郎』だ」